

WPA ルール 27.5 及び 28.1 の国内適用について

走幅跳、三段跳での踏み切りにおける無効試技の解釈が改訂され、これに伴い粘土板の角度も変更となります。

20201223-001.pdf (jaafd.org) <https://jaafd.org/pdf/committee2/20201223-001.pdf>

世界陸連(WA)及び世界パラ陸連(WPA)による世界での本ルール適用は 2021 年 11 月 1 日からとなっており、それ以降開催される国際競技会では改訂されたルールで実施されますので関係者の皆様においてはルールの再確認をお願いいたします。

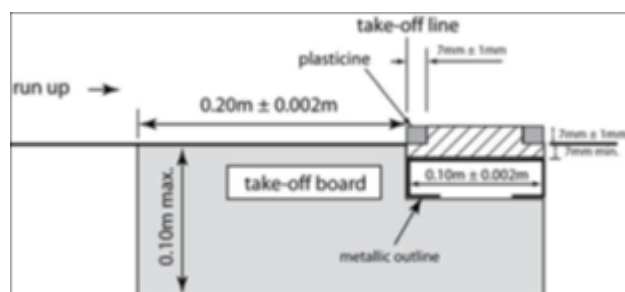
なお、日本陸連は、国内ルール適用の公認競技会での適用は 2022 年 4 月 1 日からとしています。日本パラ陸連の主催後援競技会では、WPA 公認の有無に関係なく、常に WPA ルールが適用されています。しかしながら WPA ルール 27 条については、日本陸連公認競技会に出場したときとのルールの違いによる選手の混乱を避けるため、WPA 公認でない競技会についてのみ 2022 年 3 月 31 日までは旧ルールで実施することとし、日本記録の対象ともいたします。

従いまして、11 月 27 日(土)～28 日(日)に開催される北海道東北選手権は、WPA 公認ではありませんので旧ルールでの実施となります。

【参考】ルール抜粋

WPA27.5

粘土板は、粘土を埋めた時は助走路に近い縁が 90 度の角度となるように 隅を削り取る。(図 7 参照)



WPA28.1

1. つぎのような場合は無効試技とする。

a) 競技者が踏切を行う際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で、足、靴、または義肢のどこかが踏切線の垂直面より前に出た場合。

b) 踏切線の延長線より先でも手前でも、踏切板の両端よりも外側から踏切った時。